

●桂川（嵐山・渡月橋下流・左岸9km）で竹蛇籠製作講習会用の竹割作業実施 10月7日、8日

10月7日は昨夜から降り続いた雨が止まず、気温が11月中旬並みの15度になって、一挙に冬の到来のような寒さになりました。そんな寒い中で竹割り作業を実施していただきました。これまでの4mとは違って少し長いもの（5m）の6本を竹蛇籠に編み上げるので1本あたり10本の割竹が必要のところ14本と計算すると合計140本必要になります。ですから最低35本を割らなければなりません。予備のものを計算すると40本ぐらいいは用意をしなければならない計算になります。かなりの作業でした。雨で寒く大量の竹割り作業本当にご苦労様でした。そして割るだけでなく割った竹の節とりと曲げやすくするために亀裂を入れなければならない作業が続きます。そして胴巻き竹として使用するものはできるだけ45mmの幅のものが適当なので幅精製作業が加わって、素材づくりが大変でした。本当によく頑張っていたいただきました。きっと組みあがったときに見事な作品として見栄えのする素晴らしい作品になることでしょう。期待しましょう。

●講習会のための予習を実施 10月9日

10月9日には割った竹の総点検と、軽トラ2台への積み込みを行いました。そして幅が大きい竹をすべて45mm位に鎌で調整をしました。極端に幅の狭いものは省きました。竹蛇籠が一番目立つのは材料の緑に映えて美しく編まれて整然としたところだと思います。かなり整った素材が出来上がっているのではないかと思います。念には念を入れて素材が作り上げられました。

●初日の10月10日は京田辺を7:30分に市役所に集合しての出発でした。前夜からの気象予報では午前中早い時間は降雨でした。集合してみると止んでいました。みんなが長靴で覚悟していることがわかりました。嵐山で会いましょうと約束して出発です。すると本格的な雨が降り出しました。京都市内の烏丸通を北上している時までワイパーは動き続けました。嵐山の中腹にまで雨雲がおりていましたので、覚悟した通りにも思っていました。作業準備を始めると少し青空が見えて雨が上がりました。集合の9時30分にはうれしいことに晴れ間状態になってしまいました。保津川漁協さんの6人、里山の会の8人、そして京都大学や京都府、京都市職員などの20人、（鴨川漁協さんは少し遅れて）が円陣を組んでの竹門先生から開会挨拶が始まり、全員が自己紹介をして、すっかり仲良くなりました。10時30分過ぎに早くも一本目をくみあげるチームがありました。それぞれ思い思いに三つのグループに分かれての挑戦です。森島組、太田組、大釜組にそれぞれ分かれて、組立てに挑みました。11時ごろには三つの組・全てが悪戦苦闘の末に一本目を出来上げることができました。少し気分が緩み始めるころ昼ご飯を遅らせてもう一本つくり上げようとの発破で頑張り始めてもらい1時間ほどで12時過ぎになって、保津川漁協組合長の磯部さんから作業は中止終了の声がかかり後始末になりました。予想以上の出来栄でした。製作できたものは4本で、3本が半分の完成になりました。はじめての方が大半でしたが二本目への



姿勢の時には自分はこの作業の時はこういう作業をしなければならないとめいめいの役割を飲み込み始めておられていました。いわゆる手作業の呑み込みができ始めていました。きっと次回にはい

い作品が出来上がるのではないのでしょうか。この日それぞれが苦心された所は7本目を加えるところであったようでした。次回の15日には、この部分の手順書をプリントしてゆこうと気づきました。

●会誌 53 号原稿募集中ですふるってご意見をお寄せください。締め切りが迫りました。

いま最もマスコミをにぎわしているのがロシアのウクライナへの軍事侵攻ではないのでしょうか。強引な国民投票によって併合させられたり、クリミヤ橋の爆発によって民間施設に報復としてミサイルが撃ち込まれています。第2次世界大戦以来の戦争が長期化しているのです。お互いに平和の実現に一言お願いします。また物価高騰の連続が続いています。庶民にとって食品の値上がりは応えます。一言皆さんの思いを寄せてください。お待ちしております。

●里山農園の草刈り作業を実施

農園の草刈りを久しぶりに良い作業日和になって草刈りをしました。昨年同志社大学生が葛が蔓延していた丸山やどんぐりの木やエノキを植樹したところそれに駐車場などの草刈りに取り組みました。10月は稲の刈取り新米の収穫期農繁期です。秋晴れの行楽シーズンは農家にとっては非常に大切な時期なのです。近年は収穫した新米の乾燥は乾燥機で翌日出来上がっていましたが、一昔前には、刈り取った稲を稲架（はさ）掛けでまず乾燥させて、その後脱穀機で脱穀して、持ちかえり家の前にむしろを広げてもみを太陽で乾燥させてからもみすりを行ってコメにしていたので晴天期は非常に大切な気候であったのです。このように手の込んだ作業を繰り返して日本の食料が生産されてきたのです。ところが日本人の食生活の変化からコメの消費量が減少してコメの値段は長年据え置きされて生産費に見合わなくなってきました。多くの農家ではコメつくりをやめたいという声が多く聞かれこの頃になってきています。

●10月11日 大村理事長が知人の家に新米を届けに行き、玄関で転び頭を負傷されました。腰も痛打されて安静にされています。救急車で運ばれましたが、入院の必要はなく、自宅療養をされているようです。

●会員の皆さんは、木津川についてご存知のことだと思いますがおさらいをさせていただきます。その源（源流）は三重県と奈良県の県境に連なる布引山脈です。山間部を流下した木津川は、上野盆地で服部川・柘植川が合流し、西向きに流れを変えて狭窄部の岩倉峠を経て南山城村で名張川が加わり、笠置町・木津川市・精華町・京田辺市を貫流し京都府と大阪府の府境である京都府八幡市で淀川に合流している淀川水系の河川です。の流域面積は1,596km²、幹川流路延長は99km、年間降水量は約1,350mm（全国平均約1,600mm）で瀬戸内海気候の特性を有しています。木津川水系の山地は、花崗岩や泥質岩が多く分布し風化すると脆く崩れやすい特徴があると共に、都市の発達や人口増加を背景とした薪炭や建築用材として乱伐が行われ森林が荒廃したという特徴も併せ持っています。山地の地質や人為的な乱伐から流出した土砂により、砂河川と言われる木津川が形成されてきました。

この続きは次回に・・・（小川芳也さんより）



木津川の概略図（参照：木津川上流河川事務所 HP）